

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス SRETANHOUSE			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 9月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 9月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	木工遊具のある空間設計	- 子どもたちが、身体を使ってちょっとしたチャレンジができるように、段差を大きくしたり、木のフェンスの幅を少し広めにしている。 - 地域に根ざした施設になるよう、「遊び場」として地域の子どもたちが利用できる機会を設けたり、一般の方々も参加できるような場を「マルシェ」として提供している。	- 空間を活かした遊び方や、子ども同士のコミュニケーションが自然と発生する機会を作るための基礎的な知識が必要。 - 利用する家族やその周囲の方々だけでなく、近隣の福祉施設や商業施設など、幅広い地域交流を深められるような機会を、増やしていく。
2	空間を活かしたプログラムや遊びの提供	- 子どもたちの「やってみたい」を引き出せるような、空間をつかったプログラムを設定している。 - プログラムは、スタッフが週替わりの担当制にしており、目的や視点が偏らないよう工夫している。 - 空間を使った遊びには、スタッフも子どもたちと一緒に参加して同じ時間を共有するようにしている。	- プログラム作成の土台となる知識や、プログラム設計の方法など、専門的な知識を習得する必要。 - 自然な遊びの中でどのような声掛けや促しが、子どもたちの発達にどのような影響を与えるかの、知識や経験を増やしていく。
3	保護者への丁寧な個別サポート	- 公式LINEを使って、保護者と管理者・児童指導員が個別でやりとりができるようになっているため、家や学校での気になる様子を保護者から教えてもらえたり、施設からの申し送りを行っている。 - 送迎が難しい保護者でも、施設での過ごし方が伝わるようにその日の記録を写真でお送りしている。	保護者同士が繋がる機会や、学べる場を提供できていないため、保護者を対象とした勉強会や座談会などの開催を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全管理とヒヤリハットへの対応と保護者理解をえるための説明	- 子どもが身体を使ってチャレンジできるような遊具の作りになっているため、特に未就学児には見守りが必須になってくる。 - スタッフの目が行き届いていない瞬間も発生してしまうため、その際にケガをしまったり子ども同士でぶつかる等の事故が起きてしまう。	- 契約時には、保護者への説明と空間の意図を説明させていただき、利用開始までに不安などがあればその解消に努める。 - 特に見守りやサポートが必要な子どもについて、スタッフミーティングで共有し、ケガや事故の防止に努める。
2	子どもたちの選択する「遊び」が中心とした過ごし方の	ブログや日々の記録で発信ツールを準備してはいるも	すでに発信しているツールについては、積極的に保護
3	子どもたちの進路や進級に向けて必要なサポートや環境の調整が把握しきれていない。	- 今年度4月1日からオープンしたため、子どもたちとの1年をまだ経験していない。 - 将来をイメージするための知識やぐたいてきなけーすについて知らないことが多い。	3月末で1年が経過するため、進級や進学に向けてどのような準備があればよかったかを、スタッフ間で振り返る。 - 来年度に向けて必要な準備があれば、日々のプログラムや年間のスケジュールに組み込んでいく。 - 子どもたちの将来から逆算して、今必要なサポートが何かを俯瞰的に見る機会を定期的に設ける。